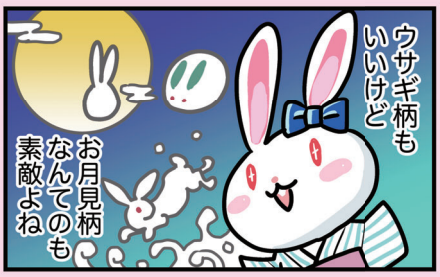
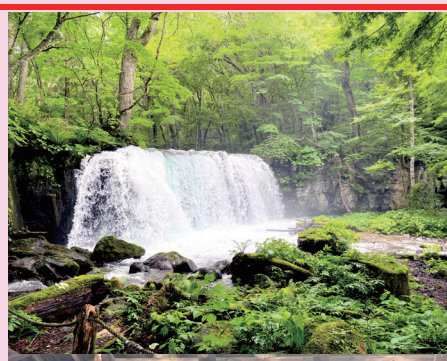
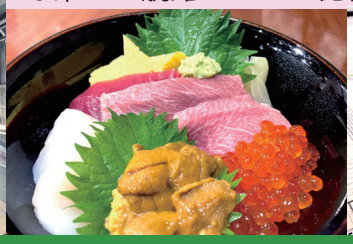
南柏うさうさものがたり



かすみの旅日記！？

【酸ヶ湯・奥入瀬・青森の旅】



７月２４日・２５日、宅建協会東葛支部山友会の山行旅行で青森県に行ってまいりました。当初は酸ヶ湯温泉から大岳に登山後、酸ヶ湯温泉に宿泊、翌日は青森観光という予定でしたが、なんと６月に近隣にてクマ被害で死傷者が出たため、八甲田山周辺は入山規制となってしまいました。が、酸ヶ湯温泉はすでに予約済み、ということで急遽予定を変更し、奥入瀬渓流を散策しました。７月の奥入瀬渓流は緑が鮮やか、かつ（関東よりは）涼しく、楽しく散策いたしました。また前日の雨で川の水嵩が増しており、数か所ある滝も迫力満点で見ごたえがありました。そして宿は酸ヶ湯温泉です。東北屈指の名湯として知られ、名物は総ヒバ造りの「ヒバ千人風呂」。160 畳もの広さがあり、源泉そのままの熱の湯、打たせ湯など５つの湯船が並んでいます。基本的には混浴ですが、お湯は白濁しており、また入り口は男女別で湯衣の着用も可能ですのでそれほど気になりません。（男女別の内湯も別にあります）酸ヶ湯はその名の通り酸性の療養泉で、分類としては酸性硫黄泉（含石膏、酸性硫化水素泉）となるとのこと。確かに硫黄泉特有の卵の黄身のような香りが辺り一面立ち込めています。私にとっては別府の明礬温泉付近でかぎなれた香りで、ちょっと懐かしさすら覚えました。地のものを使用した料理も美味しく、とても快適なお宿でした。

２日目は青森市内散策です。まずは青森市文化観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」へ。ワラッセはねぶたの歴史や、各ねぶた作家さんの系譜、作風、などとにかくねぶたのことならなんでもわかる施設です。また昨年のねぶた大賞受賞作も展示してあり、その迫力と造りの細かさには圧倒されました。青森ねぶたは毎年１５台ほど作成され、祭りの翌日には展示される大賞作を除きすべて解体されるそうです。もったいないような気もしますが、そのはかなさもまた魅力なのだとか。また訪れたのがちょうど今年のねぶた祭開始直前ということで、出来上がった大型ねぶたを運行するための台に乗せる「台上げ」の作業を見学することもでき僥倖でした。ちなみに大型ねぶたを一台作成･運行するのにかかる費用はおおむね２千万円だそうです。そのうちねぶた師に支払われるのは 400 万円程度でほとんどが材料費や人件費に費やされてしまうとか。そのため現在ではねぶた師さんはほとんど兼業だそうですよ。意外でした。その後青函連絡船メモリアルシップの八甲田丸を見学に。八甲田丸は 1964 年の就航から 1988 年の青函連絡船の運航終了時まで使用されていた船で、全長 132 メートルの威容を誇ります。船内見学では、世界的にも珍しい、船を通じて海を渡る貨物車両を搭載する「車両甲板」を見ることができます。船内にはいまだにディーゼルオイルのにおいが漂い、就航時の姿をありありと想像することができる施設です。私は以前札幌在住時に青函連絡船と同じ航路の津軽海峡フェリーを利用したことが何度かありますが、外部デッキに出ると運が良ければイルカが並走していたりしてとても楽しい航路だったと記憶しています。